



キリングループ^o

2021年度12月期 第2四半期決算

2021年8月10日
キリンホールディングス株式会社

2021年度2Q決算および2021年度通期業績予想サマリー

2021年度 2Q実績

- 連結売上収益は対前年 -1.0%の減収、連結事業利益は +2.9%の増益と、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつも、前年からの増益を実現した。
- 税引前四半期利益は、ミャンマー事業に係る減損損失の計上があったものの、持分法投資利益の増加などにより +0.9%の増益となった。
- 親会社の所有者四半期利益は、減損損失が税務上の費用にならないため、法人税率が増加し-28.7%の減益となった。

2021年度 通期業績予想修正

- 下半期は主としてミャンマーにおける新型コロナウイルス感染急拡大による販売数量減や、資材不足による原材料費高騰を踏まえ、主にミャンマー・ブルワリーの業績悪化により通期業績予想の修正を行う。
- 年初計画に対し、連結売上収益は-0.5%、連結事業利益は-5.6%の減少を見込む。
- 減損損失による平準化EPSへの影響はなく、一株当たり年間配当金は年初計画の65円を維持する。

豪州乳飲料事業の売却で前年比減収も、収益構造の改善により事業利益は前年比増益

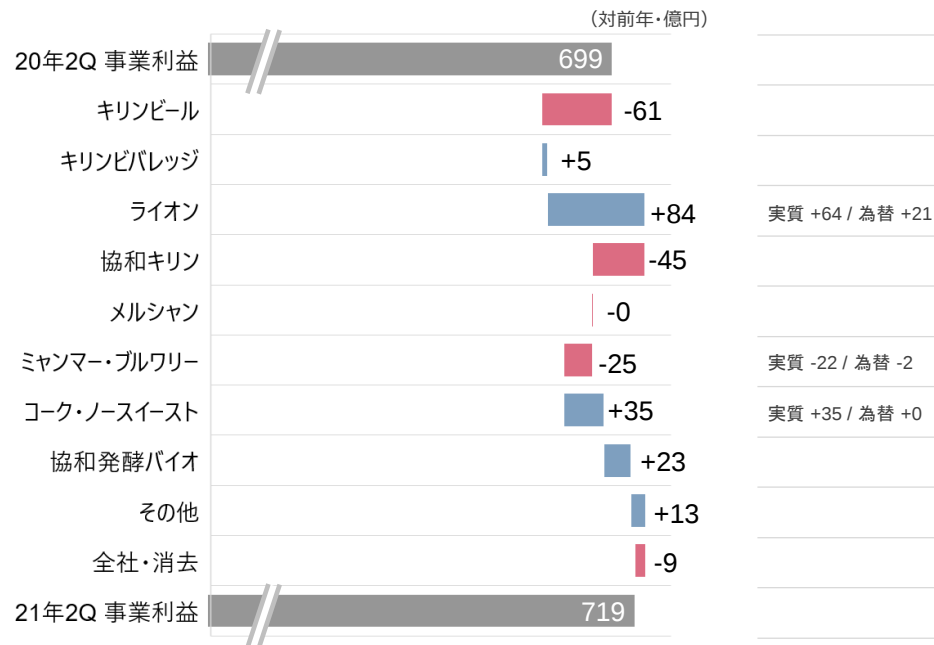
(億円)	21年2Q実績	20年2Q実績	増減	%
売上収益	8,640	8,725	-84	-1.0%
事業利益 ※1	719	699	21	2.9%
税引前四半期利益	565	560	5	0.9%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	237	333	-96	-28.7%
定量目標	21年2Q実績	20年2Q実績	増減	%
平準化EPS ※2	65円	56円	9円	16.1%

※1 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出。

※2 明細はp.20参照。

2021年度 2Q実績：連結事業利益 事業会社別増減

豪州酒類事業の回復などが牽引し、ミャンマー事業の落ち込みをカバー



補足

キリンビール

▶ ビール（家庭用）、発泡酒、RTDの販売数量増加や、高付加価値商品によるミックスアップにより限界利益が増加。計画的に販売費も増加。

キリンビバレッジ

▶ 販売数量が減少したものの、販売費の削減によりカバー。

ライオン

▶ 豪州・NZの業務用の回復に加え、前年生じた大樽の戻入や直営店営業停止の反動。

協和キリン

▶ グローバルビジネス基盤の早期確立に向け、販売費及び一般管理費が増加。

ミャンマー・ブルワリー

▶ 新型コロナ、政情激変の影響等により販売数量が大きく減少。

コーク・ノースイースト

▶ 販売数量増に加え、コストコントロール効果等。

協和発酵バイオ

▶ 原価率の改善や、償却費、研究開発費が減少。

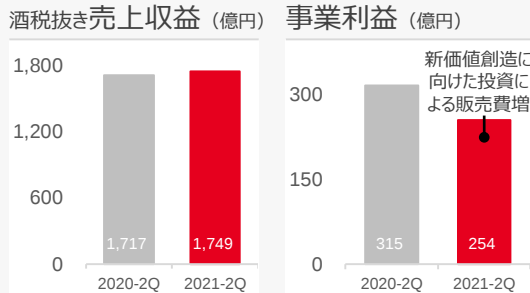
全社費用・セグメント間消去

▶ セグメント間消去が増加。

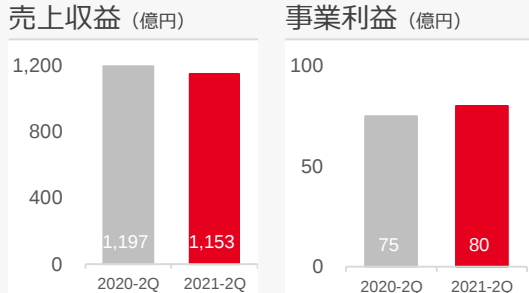
※「その他」には、「国内ビール・スピリッツ」セグメント内の「その他」を含む。

※ライオンの飲料事業売却に伴い、「酒類」、「飲料」、「本社」の明細は2021年度より記載を省略。

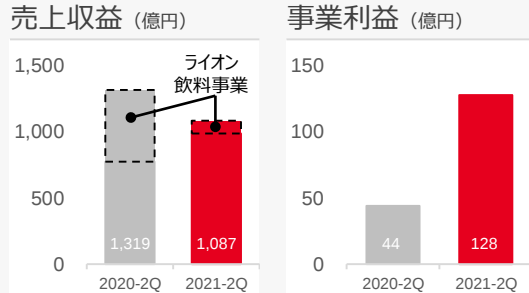
キリンビール



キリンビバレッジ



ライオン



販売数量で市場をアウトパフォーム

- ▶ 主要都市の飲食店での酒類提供の停止要請が続き1-6月の業務用市場は対前年で3割強減少（推定）
- ▶ キリンは家庭用需要を確実に取り込み市場をアウトパフォーム
ビールカテゴリーで6年ぶりのプラスを実現
- ▶ 1-6月 ビール類計販売数量
市場 △6% (推定) **キリンビール △2%**

プラズマ乳酸菌好調

- ▶ プラズマ乳酸菌入り飲料商品の累月販売数量は対前年大幅増

+46%

- ▶ 自動販売機の構造改革は計画通り進捗

上半期
利益貢献額 **13億円**



豪州・ニュージーランド

- ▶ 業務用の回復により利益が大幅に改善

海外クラフト

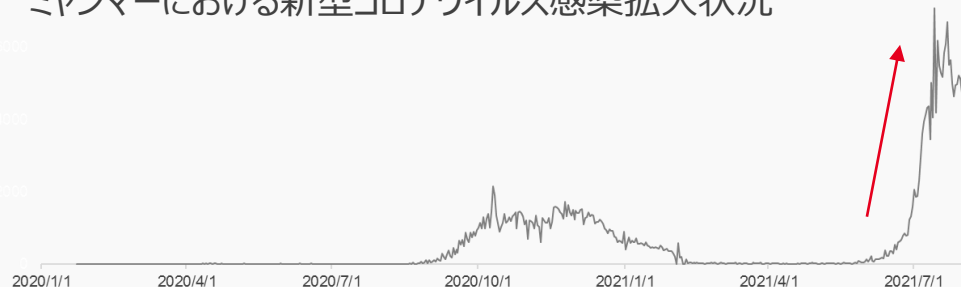
- ▶ 対前年販売数量**1割増**と力強い伸び
- ▶ New Belgium Brewingは米国のクラフトビール市場の増率を大きく上回る進捗
(市場は対前年 +5%程度と推定)



ミャンマー・ブルフリー通期業績予想の下方修正および減損の背景

業績下方修正および減損は主に外部環境の変化を要因とするもの

ミャンマーにおける新型コロナウイルス感染拡大状況



業績予想下方修正

- ▶ 新型コロナ感染急拡大による販売数量減
- ▶ 為替、缶資材の不足などによる原材料費高騰

外部環境の変化
による影響

ミャンマーにおけるカントリーリスクプレミアムの上昇 (Moody's 格付相当)

B3 相当	B3 相当	B3 相当
Caa1 相当	Caa1 相当	Caa1 相当
Caa2 相当	Caa2 相当	Caa2 相当
Caa3 相当	Caa3 相当	Caa3 相当
Ca 相当	Ca 相当	Ca 相当
C 相当	C 相当	C 相当
2020年7月	2021年1月	2021年7月

出所) NY大学 Damodaran教授公表「Country and Equity Risk Premiums」

減損認識

- ▶ WACC算出に用いるカントリーリスクの上昇
- ▶ 不透明な事業環境による将来業績への影響認識

2021年度 業績予想修正

▶ ミャンマー事業の状況を受け業績予想を修正。配当計画は年初予想を維持（対前年同額）

■ 通期業績予想

※通期為替予想レートをそれぞれ以下の通り修正

豪ドル80円⇒82円 ミャンマーチャット79円⇒71円 米ドル105円⇒110円

(億円)	21年通期 (修正予想)	20年通期 (実績)	対前年 増減	%	21年通期 (従来予想)	修正額	%	主な修正額
売上収益	18,700	18,495	205	1.1%	18,800	-100	-0.5%	ミャンマー・ブルワリー -180 (内、為替-23) / コーク・ノースイースト +124 (内、為替+65) / 麒麟ビバレッジ -104
事業利益	1,700	1,621	79	4.9%	1,800	-100	-5.6%	ミャンマー・ブルワリー -98 (内、為替-7) / コーク・ノースイースト +36 (内、為替+6) / 麒麟ビバレッジ -25
税引前利益	1,580	1,246	334	26.9%	1,770	-190	-10.7%	その他営業費用 -180 (減損 -214 ミャンマー・ ブルワリー) / 持分法による投資利益 +54
親会社の所有者 当期利益	865	719	146	20.2%	1,030	-165	-16.0%	上記に加えて、非支配持分当期利益 +30

■ 定量目標 / 通期予想配当金 (一株当たり)

+は年初に対して益方向、- は損方向への修正を指す

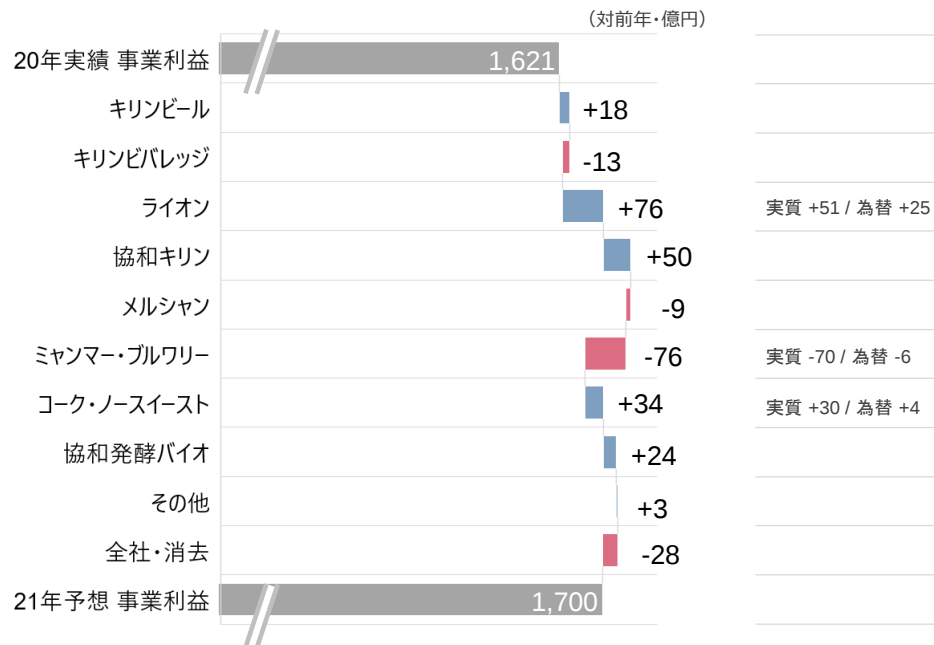
(億円)	21年通期 (修正予想)	20年通期 (実績)	対前年 増減	21年通期 (従来予想)	修正額
ROIC	6.5%	6.0%	—	7.6%	—
平準化EPS	148円	136円	12円	147円	1円
年間配当金	65円	65円	—	65円	—

2021年度 業績予想修正：連結事業利益 事業会社別増減

▶ ミャンマー事業の落ち込みをグループ全体のポートフォリオで補完

※従来予想からの修正額はP24を参照。

補足



キリンビール

▶ 年初計画より修正なし、前年比で増益を計画。

キリンビバレッジ

▶ 販売数量の減少に加えて、商品・容器構成差異等の悪化により下方修正し、前年比で減益計画。

ライオン

▶ 本社費用の増加により下方修正も、酒類の業務用回復などにより前年比で増益を計画。

協和キリン

▶ 年初計画より修正なし、前年比で増益を計画。

ミャンマー・ブルワリー

▶ 新型コロナ、政情激変の影響等により販売数量が大きく減少し下方修正。前年比で減益計画。

コーク・ノースイースト

▶ コストコントロール効果等により上方修正、前年比で増益を計画。

協和発酵バイオ

▶ 年初計画より修正なし、前年比で増益を計画。

全社費用・セグメント間消去

▶ 減価償却費等の減少により年初計画から減少、前年比で増加を計画。

※「その他」には、「国内ビール・スピリッツ」セグメント内の「その他」を含む。

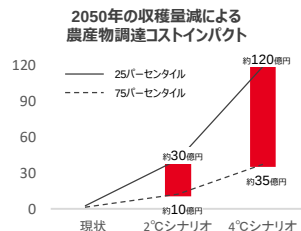
※ライオンの飲料事業売却に伴い、「酒類」、「飲料」、「本社」の明細は2021年度より記載を省略。

Environment

TCFDシナリオ分析に基づく分析結果をアップデート

主要原料農産物への影響評価の範囲拡大

- ▶ 新たに豪州、NZおよびミャンマーのビール事業など海外事業にも分析対象を拡大
- ▶ 気候変動が原料農産物収量減と与える財務インパクトとして、2℃シナリオでは、4℃シナリオより調達コストを約90億円縮小できる可能性があるとして試算



気候変動の緩和

ビール4工場でPPA太陽光発電導入

- ▶ キリンビール国内4工場で、PPA（Power Purchase Agreement）モデルによる太陽光発電電力を導入し、さらに他工場へも拡大予定
- ▶ 年間約4,500tのGHG排出量を削減予定



仙台工場 名古屋工場 旭川工場 神戸工場

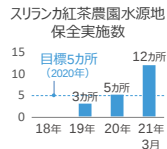
気候変動の適応

農園の認証取得支援の強化

- ▶ レインフォレスト・アライアンス認証取得トレーニングを通じた気候変動にレジリエントな農業の推進・拡大

スリランカ紅茶農園の水源地保全活動

- ▶ 渇水などによる調達先の農園被害最小化への取り組みが計画を上回り進捗



Social
とリンク

Social

「午後の紅茶」ブランドからスリランカ産のレインフォレスト・アライアンス認証茶葉を使用した商品を発売

- ▶ スリランカ産茶葉100%、そのうちレインフォレスト・アライアンス認証茶葉を90%以上使用した初の商品を発売
- ▶ キリングroupは2013年よりスリランカの紅茶農園の認証取得支援を開始し、2020年末時点で、キリングgroupの支援により93の紅茶大農園と120の小農園が認証を取得
- ▶ 認証を取得した農園では、診療所の拡充や茶摘みさんの給与増など、農園労働者の生活向上も
- ▶ 本活動の知見を生かし、キリングgroupが輸入するコーヒー豆の1/3を占めるベトナムのコーヒー農園へも認証取得支援拡大



「キリングgroup持続可能なサプライヤー規範」を改訂

- ▶ 調達リスク管理強化の一環として、グループ全体を適用範囲とするサプライヤー規範へ改訂
- ▶ 人権項目において、ILO※国際労働条約に則り、サプライヤー遵守事項を具体化



「変革の起点づくり」の進捗

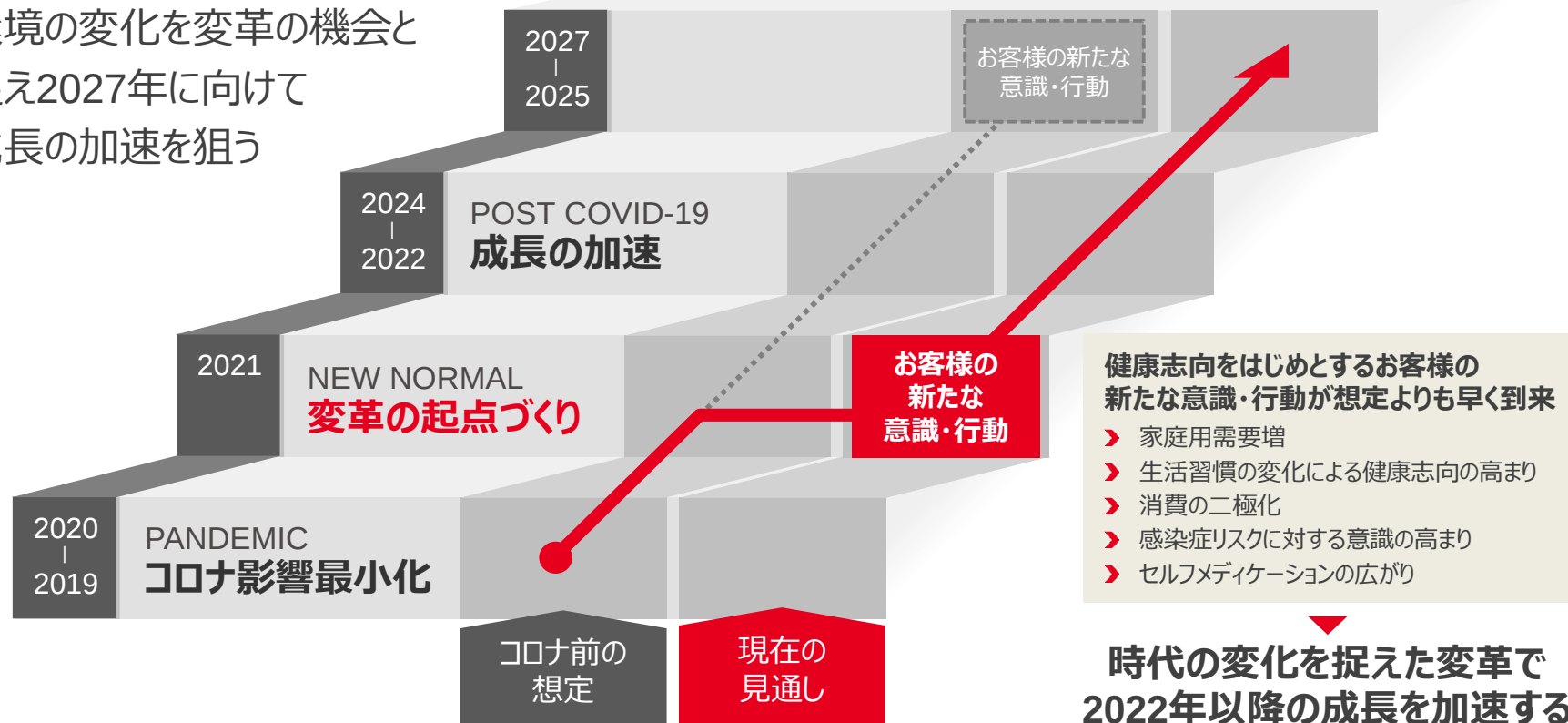
Joy brings us together

新型コロナの新規感染者数は2020年よりも多く、正常化にはまだ時間がかかる見通し



ニューノーマルな時代のなかで成長を加速させる

環境の変化を変革の機会と
捉え2027年に向けて
成長の加速を狙う



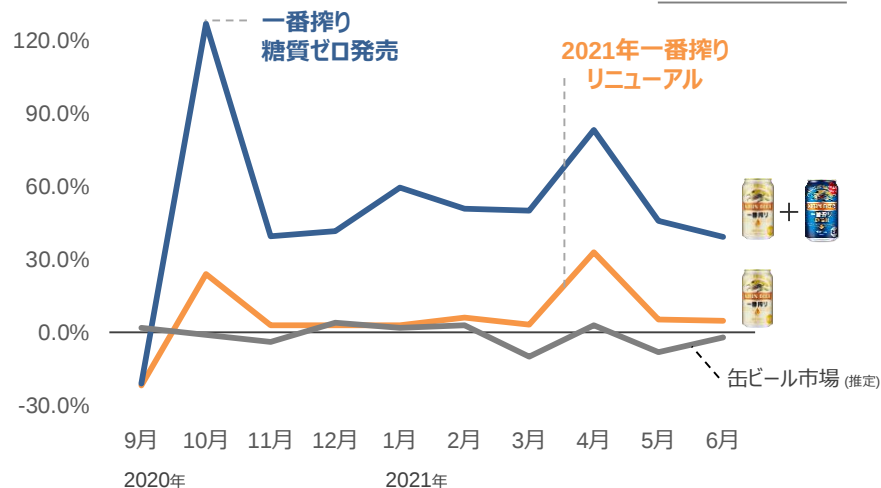
麒麟ビール①盤石な主力ブランドと新たな価値によるミックスアップ

主力ブランドの「一番搾り (缶)」がビール市場をリード。高付加価値商品により高価格帯へのシフトを実現

酒税改正後、一番搾り (缶) は単体、ブランド計共に、
販売数量が対前年を超え続けている

「一番搾り(缶)」 「一番搾り糖質ゼロ(缶)」酒税改正以降の販売数量推移

(対前年増減率)

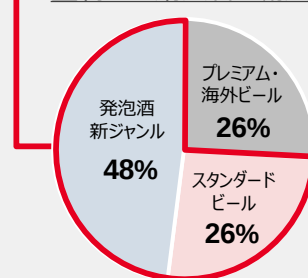


豊潤496は高価格帯へのシフトを実現
高付加価値RTDの構成比は、昨年0%から8%に拡大

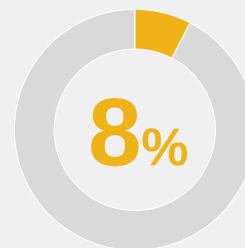


豊潤496
購入者の約7割が、
プレミアム以外の
カテゴリーから流入

豊潤496購入者の流入元



高付加価値RTDの構成比



当社2QのRTD販売数量全体に占める割合

キリンビール②Home Tapの拡大とビール市場の活性化

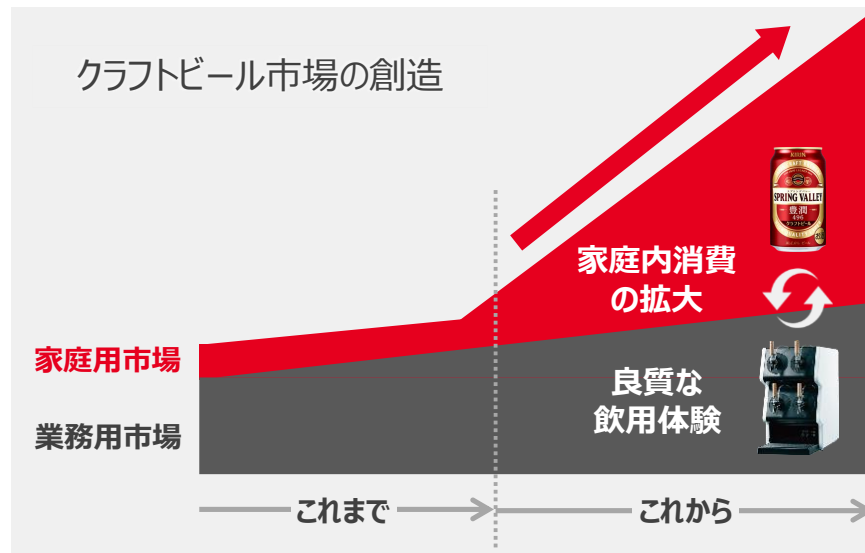
業界をリードし、イノベーションを通じた日本のビール市場活性化を着実に進める

Home Tap会員数10万人を前倒しで達成

会員数 **10万人** 達成 ▶ **15万人** を目指す



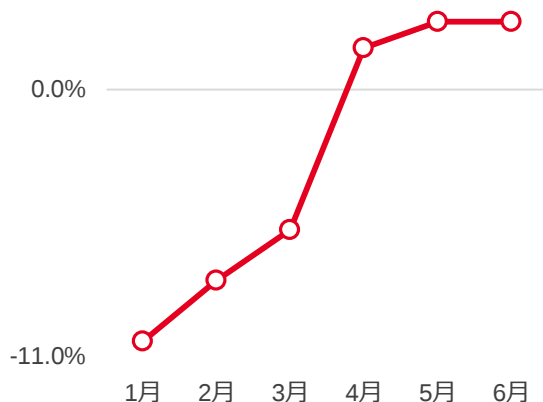
Home Tapを通じた飲用体験は「クラフトビール」というカテゴリーを通じ、業務用市場、家庭用市場の両方に好循環を生む



豪州・NZ市場は順調に回復。収益性改善に向けた改革が着実に進行中

豪州・NZ市場は着実に回復

豪州+NZ対前年販売数量（累月）



一方、業務用の落ち込みによる
事業リスクが顕在化

収益性改善の必要性を再認識

ブランド力強化による
マーケティングROIの向上

- ▶ マーケティング改革として、「お客様主語」を中心に、戦略、構造、プロセス、文化、評価軸の全てを再定義
- ▶ 新たなマーケティング部長の下、2022年度プラン策定中



SCM改革による
原価の改善

- ▶ 6月末に1工場再編完了
- ▶ 並行して生産性向上、組織改革、SKU削減など着実に計画を遂行中

「午後の紅茶」「生茶」ブランドでのプラズマ乳酸菌展開により、エントリーマス獲得と認知拡大に繋げる

カテゴリー

国内清涼飲料市場は減少傾向に転じる一方、健康志向は拡大

販売チャネル

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、自動販売機チャネルの構成比が減少

業界構造

業界の主要プレーヤー数に変化なし、上位2社の市場シェアも不変

キリンビバレッジはヘルスサイエンス領域を担う会社になりポジショニング

キリンビバレッジが考える健康領域のセグメント

摂りすぎない健康



プラスの健康



「午後の紅茶」「生茶」ブランドから
プラズマ乳酸菌入り飲料を発売
(2021年10月12日発売)



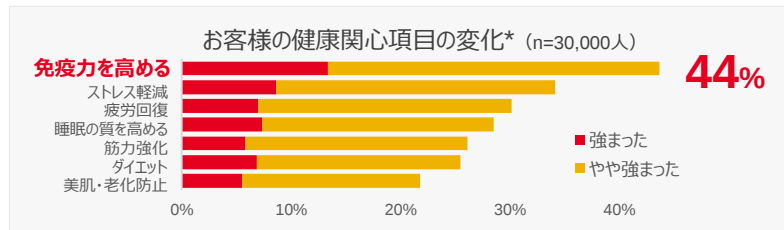
プラズマ乳酸菌

- ▶ 上半期の好調な販売を受け
通期売上収益予想を上方修正

110億円 ▶ 135億円



- ▶ 健康に対する意識に明らかな変化。
自社ブランドに留まらない商品展開によるエントリーマスの拡大を狙う。



当社の素材を活用したパートナーの商品が



今秋以降発売予定

*Q. コロナ後の健康意識として、最も当てはまるものを選んでください。「強まった」「やや強まった」と回答した人の割合。「筋力強化」「ストレス軽減」「美肌・老化防止」「ダイエット」「睡眠の質」「疲労回復」「免疫力を高める」の7項目の中で「強まった」「やや強まった」と回答した人の割合が最も高かったことを指す (データ：当社調べ (n=30,000)) 2020年8月実施

協和発酵バイオ



信頼の回復

- ▶ 安定的な供給体制の確立
- ▶ 品質保証基盤の盤石化
- ▶ 継続した組織風土改革



**事業構造
改革の実行**

- ▶ 生産品目絞り込み
- ▶ HMO製造設備新設
- ▶ シチコリン製造設備増強
- ▶ BtoC製品製造をFANCLへ移管

**安定供給や品質保証の盤石化に加え、
事業構造改革が着実に進捗**

ヘルスサイエンス事業拡大のための医薬事業の重要性

健康

未病・予防

疾病

KIRIN  の強み

- 素材・原薬事業のノウハウ
- 微生物育種改良技術による新規機能物質の開発
- 独自の発酵生産・高純度精製技術による工業生産
- 醸造事業で培われたプラントエンジニアリング力



Kyowa KIRIN の強み

- 医薬事業のノウハウ、研究データ、豊富なエビデンス
- 医薬品・グローバル開発力
- 医薬規制（GMP等）・薬事対応力
- 国家プロジェクト、アカデミア、ベンチャー企業などとの繋がり

医薬事業の強み提供

研究開発

医薬品レベルの研究成果
開発・上市スピードの向上

製品

科学的根拠に基づく
サプリメント、サービス

市場浸透

食品とは異なる販売ルート
“アカデミア・マーケティング”

資料編

Joy brings us together

2021年度 2Q実績：平準化EPS 明細

(億円)		21年2Q実績	20年2Q実績
親会社の所有者に帰属する四半期利益	①	237	333
税金等調整後その他営業収益／費用等	②	302	139
平準化 四半期利益	③＝①＋②	539	472
期中平均株式数（千株）	④	833,607	846,861
平準化EPS（円）	③÷④	65	56

2021年度 2Q実績：セグメント別 売上収益

(億円)		21年2Q実績	20年2Q実績	増減	%
連結 売上収益		8,640	8,725	-84	-1.0%
国内ビール・スピリッツ	麒麟ビール	3,105	2,959	146	4.9%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	3,000	2,872	128	4.4%
国内飲料		105	87	19	21.7%
	麒麟ビバレッジ	1,142	1,188	-46	-3.8%
	セグメント間取引消去	1,153	1,197	-45	-3.8%
オセアニア酒類		-10	-10	-1	—
	ライオン	1,087	1,319	-231	-17.5%
	セグメント間取引消去	1,087	1,319	-232	-17.6%
医薬		-0	-0	0	—
	協和麒麟	1,647	1,575	72	4.6%
	セグメント間取引消去	1,650	1,578	72	4.6%
その他		-3	-3	0	—
	メルシャン	1,658	1,684	-26	-1.5%
	ミャンマー・ブルワリー	280	300	-20	-6.7%
	コーク・ノースイースト	111	163	-52	-31.8%
	協和発酵バイオ	717	639	78	12.2%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	248	318	-70	-22.2%
		303	264	38	14.5%

※「オセアニア酒類」は、ライオンの飲料事業売却に伴い、「オセアニア総合飲料」から名称変更。また、ライオンの「酒類」、「飲料」の明細は2021年度より記載を省略。

2021年度 業績予想修正：セグメント別 売上収益

(億円)

連結 売上収益	
国内ビール・スピリッツ	キリンビール
	その他・内部及びセグメント間取引消去
国内飲料	キリンビバレッジ
	セグメント間取引消去
オセアニア酒類	ライオン
	セグメント間取引消去
医薬	協和キリン
	セグメント間取引消去
その他	メルシャン
	ミャンマー・ブルワリー
	コーク・ノースイースト
	協和発酵バイオ
	その他・内部及びセグメント間取引消去

2021年 修正予想	2020年 実績	対前年 増減	%
18,700	18,495	205	1.1%
6,975	6,514	461	7.1%
6,745	6,322	423	6.7%
230	193	38	19.6%
2,546	2,522	24	1.0%
2,567	2,542	25	1.0%
-21	-20	-0	—
2,203	2,921	-719	-24.6%
2,203	2,922	-718	-24.6%
-1	-0	-0	—
3,503	3,178	325	10.2%
3,510	3,184	326	10.3%
-7	-6	-1	—
3,473	3,360	113	3.4%
587	621	-34	-5.5%
206	318	-112	-35.2%
1,425	1,294	131	10.1%
578	573	5	0.9%
677	554	123	22.2%

2021年 従来予想	予想 修正額	%
18,800	-100	-0.5%
6,944	31	0.4%
6,736	9	0.1%
209	22	10.5%
2,653	-107	-4.0%
2,671	-104	-3.9%
-17	-3	—
2,122	80	3.8%
2,123	80	3.8%
-1	-0	—
3,503	—	—
3,510	—	—
-7	—	—
3,576	-104	-2.9%
621	-34	-5.5%
386	-180	-46.6%
1,300	124	9.5%
578	—	—
691	-14	-2.0%

※「オセアニア酒類」は、ライオンの飲料事業売却に伴い、「オセアニア総合飲料」から名称変更。また、ライオンの「酒類」、「飲料」の明細は2021年度より記載を省略。

2021年度 2Q実績：セグメント別 事業利益

(億円)		21年2Q実績	20年2Q実績	増減	%
連結 事業利益		719	699	21	2.9%
国内ビール・スピリッツ	麒麟ビール	267	328	-61	-18.5%
	その他	254	315	-61	-19.3%
国内飲料	麒麟ビバレッジ	13	13	-0	-0.5%
		80	75	5	7.2%
オセアニア酒類		80	75	5	7.2%
	ライオン	128	44	84	192.9%
医薬		128	44	84	192.9%
	協和麒麟	301	346	-45	-13.0%
その他		301	346	-45	-13.0%
	メルシャン	164	119	45	38.0%
	ミャンマー・ブルワリー	11	11	-0	-4.1%
	コーク・ノースイースト	47	71	-25	-34.6%
	協和発酵バイオ	70	35	35	99.7%
	その他	3	-19	23	—
全社費用・セグメント間取引消去		33	21	13	63.0%
		-221	-212	-9	—

※「オセアニア酒類」は、ライオンの飲料事業売却に伴い、「オセアニア総合飲料」から名称変更。また、ライオンの「酒類」、「飲料」、「本社」の明細は2021年度より記載を省略。

2021年度 業績予想修正：セグメント別 事業利益

(億円)		2021年 修正予想	2020年 実績	対前年 増減	%	2021年 従来予想	予想 修正額	%
連結 事業利益		1,700	1,621	79	4.9%	1,800	-100	-5.6%
国内ビール・スピリッツ		773	755	18	2.4%	768	5	0.7%
	麒麟ビール	750	732	18	2.5%	750	—	—
	その他	23	23	0	1.9%	18	5	27.8%
国内飲料		205	218	-13	-5.8%	230	-25	-10.9%
	麒麟ビバレッジ	205	218	-13	-5.8%	230	-25	-10.9%
オセアニア酒類		297	221	76	34.1%	306	-10	-3.3%
	ライオン	297	221	76	34.1%	306	-10	-3.3%
医薬		640	590	50	8.4%	640	—	—
	協和麒麟	640	590	50	8.4%	640	—	—
その他		269	293	-24	-8.2%	352	-83	-23.6%
	メルシャン	26	36	-9	-26.1%	32	-5	-15.6%
	ミャンマー・ブルワリー	62	138	-76	-55.3%	160	-98	-61.3%
	コーク・ノースイースト	127	93	34	36.6%	91	36	39.6%
	協和発酵バイオ	1	-23	24	—	1	—	—
	その他	53	49	4	8.7%	69	-15	-21.7%
全社費用・セグメント間取引消去		-484	-456	-28	—	-496	12	—

※「オセアニア酒類」は、ライオンの飲料事業売却に伴い、「オセアニア総合飲料」から名称変更。また、ライオンの「酒類」、「飲料」、「本社」の明細は2021年度より記載を省略。

2021年度 2Q実績：キリンビール

(千KL)	21年2Q実績	20年2Q実績	増減 %
ビール類計	740	757	-2.3%
ビール	210	191	10.2%
発泡酒	187	182	2.7%
新ジャンル	343	384	-10.8%
RTD	218	191	13.7%
ノンアルコール飲料	24	21	13.1%

*ビール酒造組合での合意により、ビール類の販売数量実績は、2Q及び4Qのみ開示

(億円)	21年2Q実績	20年2Q実績	増減	%
売上収益	3,000	2,872	128	4.4%
酒税売上収益	1,749	1,717	32	1.9%
事業利益	254	315	-61	-19.3%

20年2Q 事業利益 (億円)	315	主要内容
対前年増減 (億円)	21	ビール類計 -7億 (ビール増 19千kl、発泡酒増 5千kl、新ジャンル減 -42千kl) ビール類以外計 +17億 (RTD増 26千kl、ノンアル増 3千kl) 品種構成差異等 +11億
酒類等 限界利益 増	7	
原材料費 減	-88	販売促進費増 -19億、 広告費増 -69億 (計256億→344億)
販売費 増	-1	
その他費用 増	-61	
計	254	
21年2Q 事業利益		

三補足

国内酒類市場

- ▶ ビール類は前年同期比約 -6%。
- ▶ 業務用チャネルは3〜4割減。
- ▶ 健康志向が継続。

販売数量

- ▶ 主力ブランドに加え新商品が好調に推移し、ビール類・RTDのほぼ全てのカテゴリーで市場を上回った。
- ▶ 一番搾りブランドの缶合計は+45%と大きな伸びを示している。

業績補足

- ▶ ビール家庭用・発泡酒・RTDの販売数量増加や、高付加価値商品によるミックスアップの影響により、厳しい市場環境の中でも、限界利益は21億円増加した。
- ▶ 原材料費は、コスト削減の取り組みにより7億円減少した。
- ▶ 長期的な視点でのブランド投資を強化したことで、販売費は88億円増加した。

2021年度 業績予想修正：キリンビール

(千KL)	2021年 修正予想	2020年 実績	増減 %	2021年 従来予想	修正値
ビール類計	1,658	1,638	1.2%	1,665	-7
ビール	519	456	13.8%	534	-15
発泡酒	380	384	-1.1%	361	19
新ジャンル	760	798	-4.9%	770	-10
RTD	470	429	9.5%	450	20
ノンアルコール飲料	51	44	15.3%	55	-4

(億円)	2021年 修正予想	2020年 実績	増減	%	2021年 従来予想	修正額
売上収益	6,745	6,322	423	6.7%	6,736	9
酒税抜売上収益	3,931	3,731	200	5.4%	3,923	8
事業利益	750	732	18	2.5%	750	—



販売数量計画

- ▶ ビール類の各カテゴリーの販売数量は年初計画の水準を維持。
- ▶ 一番搾り、一番搾り糖質ゼロ、本麒麟などの主力ブランドに注力し、上期の業務用での未達分をカバーする。

2020年 事業利益 (実績) (億円)		732	主な内容			732
対前年増減	酒類等 限界利益 増	106	ビール類計 65億 (ビール増 63千kl、発泡酒減 -4千kl 新ジャンル減 -39千kl) ビール類以外計 39億 (RTD増 41千kl、ノンアル増 7千kl) 品種構成差異等 2億	酒類等 限界利益 増		103
	原材料費 減	0		原材料費 減		8
	販売費 増	-104	販売促進費・広告費増 (計592億→696億)	販売費 増		-93
	その他費用 減	16		その他費用 減		0
	計	18		計		18
2021年 事業利益 修正予想		750		2021年 事業利益 従来予想		750

売上収益・事業利益

- ▶ 限界利益は、年初計画時より改善が進み、運搬費の想定以上の上昇などがありながらも、若干のプラス。
- ▶ 販売費は、会員数増加が順調なHome Tapにさらなる投資を行うことにより増額。
- ▶ その他費用は、新型コロナ影響により事業活動に制限が生じることで減少が見込まれることを反映し、修正。

2021年度 2Q実績：キリンバレッジ

販売数量（万ケース）		21年2Q 実績	20年2Q 実績	増減 %
カテゴリー別	紅茶	2,309	2,440	-5.4%
	日本茶	1,400	1,482	-5.6%
	U-ee-飲料	1,217	1,127	8.0%
	果実・野菜飲料	1,190	1,110	7.2%
	炭酸飲料	646	731	-11.7%
	健康・スポーツ飲料	547	481	13.7%
	水	1,720	2,042	-15.7%
	その他	649	753	-13.7%
容器別	缶	1,185	1,251	-5.3%
	大型PET	3,137	3,747	-16.3%
	小型PET	4,465	4,334	3.0%
	その他	892	834	7.0%
計		9,679	10,166	-4.8%

(億円)	21年2Q 実績	20年2Q 実績	増減	%
売上収益	1,153	1,197	-45	-3.8%
事業利益	80	75	5	7.2%

20年2Q 事業利益 (億円)		75	主な内容
対前年増減	清涼飲料限界利益 減	-29	販売数量減 -488万ケース -22億 商品・容器構成差異等 -6億
	原材料費等 減	4	原料費増 -0億、材料費減 4億、加工費増 -0億
	販売費 減	26	販売促進費減 19億、広告費減 8億（計155億 → 129億）
	その他費用 減	4	
	計	5	
21年2Q 事業利益		80	

補足

清涼飲料市場

- ▶ 清涼飲料市場は、約+1%で推移。

販売数量

- ▶ 基盤ブランドである「午後の紅茶」、「生茶」は、いずれも外出自粛、在宅勤務増加により前年から減少。
- ▶ 健康志向の高まりにより、プラズマ乳酸菌商品の販売数量は前年同期比 + 46%と堅調に推移。

業績補足

- ▶ 売上収益は、商品・容器構成差異等は改善したものの、販売数量の減少により減収。
- ▶ 販売数量の減少に加え、チャネル構成比の変化に伴う商品・容器構成差異等の悪化が限界利益を押し下げ。
- ▶ 原材料費等の減少に加え、販売促進費、広告費の削減を進めたことにより、事業利益は増加。

2021年度 業績予想修正：キリンビバレッジ

販売数量 (万ケース)		2021年 修正 予想	2020年 実績	増減 %	2021年 従来 予想	修正値
カテゴリー別	紅茶	5,494	5,064	8.5%	5,635	-141
	日本茶	3,266	3,257	0.3%	3,420	-154
	コヒー飲料	2,407	2,334	3.1%	2,379	28
	果実・野菜飲料	2,379	2,314	2.8%	2,247	132
	炭酸飲料	1,385	1,529	-9.4%	1,552	-167
	健康・スポーツ飲料	1,148	1,141	0.6%	1,389	-241
	水	3,938	4,169	-5.5%	3,907	31
	その他	1,572	1,630	-3.6%	1,627	-55
	缶	2,525	2,603	-3.0%	2,647	-122
	大型PET	7,337	7,624	-3.8%	7,483	-146
容器別	小型PET	9,876	9,416	4.9%	10,219	-343
	その他	1,851	1,796	3.1%	1,808	43
	計	21,589	21,439	0.7%	22,157	-568

(億円)	2021年 修正 予想	2020年 実績	増減	%	2021年 従来 予想	修正額
売上収益	2,567	2,542	25	1.0%	2,671	-104
事業利益	205	218	-13	-5.8%	230	-25

2020年 事業利益 (実績) (億円)	218	主な内容	218
清涼飲料限界利益 増	14	販売数量増 150万ケース 7億、商品・容器構成差異 等 7億	71
原材料費等 減	1	原料費増 -7億、材料費減 6億、加工費減 2億	8
販売費 増	-17	販売促進費・広告費増 -17億 (計307億 → 324億)	-39
その他費用 増	-11	人件費増 等	-28
計	-13		12
2021年 事業利益 修正予想	205		230

補足

販売数量・売上収益

- ▶ 上期のコロナ影響を踏まえて、清涼飲料全体で通期の販売数量を年初計画から568万ケース下方修正。
- ▶ 売上収益は、販売数量の減少に加え、チャネル構成比の悪化により、従来予想から下方修正。

事業利益

- ▶ 販売数量の減少、商品・容器構成差異等の悪化により、限界利益を従来予想から下方修正。
- ▶ これに対して、販売費（販売促進費、広告費）の適正化を進めることで、従来予想から減益幅を最小限度に抑制。
- ▶ 販売費は、年初計画からは減少するものの、基盤ブランド及びiMUSEブランドの強化を図るため、下期に関しては年初計画並みの投資を実行する。

2021年度 2Q実績：ライオン

円ベース（億円）

	21年2Q 実績	20年2Q 実績	増減	%
売上収益	1,087	1,319	-232	-17.6%
事業利益	128	44	84	192.9%

豪ドルベース（百万豪ドル）

	21年2Q 実績	20年2Q 実績	増減	%
売上収益	1,304	1,857	-553	-29.8%
事業利益	154	63	91	145.6%

（参考）旧セグメント表記

	21年2Q実績	20年2Q実績	増減	%
売上収益（酒類）	990	778	212	27.3%
売上収益（飲料）	98	541	-444	-82.0%
事業利益（酒類）	160	76	84	111.2%
事業利益（飲料）	9	-6	15	—
事業利益（本社）	-41	-26	-15	—

販売数量増減 *	4.3%
20年2Q 実績	108
豪州・NZ	11
数量	70
海外クラフト他**	3
21年2Q 実績	192

* 販売数量増減は豪州・NZ・海外クラフト他の合計。海外クラフト他を除く豪州 + NZの販売数量は前年比+2.8%。

** 海外クラフト他は数量増減影響とその他の影響のネット額。



売上収益

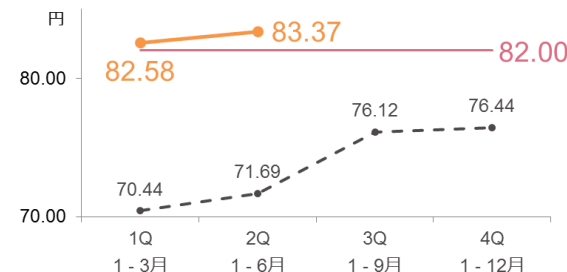
- ライオン計の売上収益は、乳飲料事業売却に伴う売上減少（-645m）により大幅減。酒類事業は92mの増収。
- 豪州・NZの売上収益は、昨年新型コロナウイルスにより業務用チャネルが大きく影響を受けたのに対し、今年は販売が堅調に推移したことで増収。
- 海外クラフト他は、Voodoo Rangerブランドをはじめとする北米クラフトの販売好調で増収。
- 飲料事業は、事業売却により1月25日までの業績のみ計上。

事業利益

- ライオン計の事業利益は、酒類事業の回復により大幅に増益。
- 豪州・NZは業務用の回復に加え、前年同期に生じた大樽の戻入や直営店営業停止の反動で大幅に増益。
- 海外クラフト他は、米ドル安豪ドル高の影響を受けつつ販売好調で増益。
- 本社費用の増加は、ERP導入に伴う減価償却費、メンテナンスコストの増加や、サイバーセキュリティ投資のコスト増が主な要因。

AUD（オーストラリア・ドル）

* 累月平均



※2021年度1Qより、3か月毎の平均レートから累月平均に変更。
前年実績は3ヵ月平均レートで表記。

連結為替影響

21年2Q実績（億円）

売上収益	事業利益
+161	+21
-393	+64
-232	+84

■ 実質
■ 為替

2021年度 業績予想修正：ライオン

円ベース (億円)

	2021年 修正予想	2020年 実績	増減	%	2021年 従来予想	修正額
売上収益	2,203	2,922	-718	-24.6%	2,123	80
事業利益	297	221	76	34.1%	306	-10

通期予想レート：82.00円（豪ドル）

(参考) 旧セグメント表記	2021年 修正予想	2020年 実績	増減	%	2021年 従来予想	修正額
売上収益（酒類）	2,107	1,775	332	18.7%	2,027	80
売上収益（飲料）	96	1,147	-1,051	-91.6%	96	0
事業利益（酒類）	393	244	148	60.8%	393	-1
事業利益（飲料）	9	31	-23	-72.2%	1	8
事業利益（本社）	-104	-54	-50	—	-88	-17

豪ドルベース (百万豪ドル)

	2021年 修正予想	2020年 実績	増減	%	2021年 従来予想	修正額
売上収益	2,687	3,958	-1,271	-32.1%	2,654	33
事業利益	362	295	67	22.8%	383	-21

	2021年 修正予想	2020年 実績	増減	%	2021年 従来予想	修正額
売上収益（酒類）	2,569	2,402	168	7.0%	2,534	36
売上収益（飲料）	117	1,556	-1,439	-92.5%	120	-3
事業利益（酒類）	479	328	151	46.1%	492	-13
事業利益（飲料）	11	40	-30	-73.8%	1	10
事業利益（本社）	-127	-73	-54	—	-110	-18



補足

売上収益

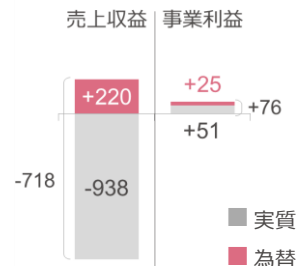
- ライオン計の売上収益は、酒類事業の上方修正により増加。
- 酒類事業の売上収益は、北米クラフトの販売状況を踏まえ年初計画を上方修正。
- 乳飲料事業は1Q実績に合わせ修正。

事業利益

- 乳飲料事業の予想を1Q実績に合わせ増額修正した一方、新型コロナ感染拡大による、豪州主要都市での再度のロックダウンに伴い、酒類の事業利益計画を一部減額修正。
- 本社費用の増加は、前年のコストダウンの反動影響を一部修正したほか、足元のロックダウンによる追加的な影響を加味し、一部リザーブとして確保。

連結為替影響

2021年業績予想修正（億円）



2021年度 2Q実績 / 2021年度 業績予想修正：協和キリン

(億円)	21年2Q 実績	20年2Q 実績	増減	%
売上収益	1,647	1,575	72	4.6%
協和キリン	1,650	1,578	72	4.6%
セグメント間取引消去	-3	-3	0	—
事業利益	301	346	-45	-13.0%
協和キリン	301	346	-45	-13.0%

三補足

売上収益

- 日本において新製品群である「クリースピータ」、「ハルロピ」、「ダーブロック」は堅調に市場浸透したものの、ダルベポエチン アルファ注シリンジ「KKF」や「ロミプレート」の減収、並びに薬価改定や共同販売等終了により、国内は減収。
- 海外は「Crysvita」、「Poteligeo」、「Nourianz」のグローバル戦略品が順調に伸長し、増収。
- 技術収入は導出品「ファセンラ」に関連する売上ロイヤルティの増加に加え、抗LIGHTヒト型モノクローナル抗体に関する権利許諾契約一時金収益の計上もあり、これらの結果、売上収益は全体で増収。

事業利益

- グローバル戦略品を中心とした海外の売上収益増加により売上総利益は増加したものの、グローバル戦略品の価値最大化と競争力あるグローバルビジネス基盤の早期確立に向けた販売費及び一般管理費の増加や研究開発費の増加等により減益。

(億円)	2021年 修正予想	2020年 実績	増減	%	2021年 従来予想	修正額
売上収益	3,503	3,178	325	10.2%	3,503	—
協和キリン	3,510	3,184	326	10.3%	3,510	—
セグメント間 取引消去	-7	-6	-1	—	-7	—
事業利益	640	590	50	8.4%	640	—
協和キリン	640	590	50	8.4%	640	—

三補足

2021年 業績予想修正

- 売上収益、事業利益ともに年初計画から修正なし。
- 「ダーブロック」、「ハルロピ」、欧州「Poteligeo」、米国「Nourianz」等進捗が遅れている製品もある一方で、「クリースピータ」、ダルベポエチン アルファ注シリンジ「KKF」、「アレロック」、「パタノール」等進捗が好調な製品もあり、全体として計画線で推移。
- 販管費、研究開発費も期初計画どおり進捗し、下期も予定通りの投資を行う。

2021年度 2Q実績 / 2021年度 業績予想修正：ミャンマー・ブルフリー

円ベース (億円)

チャットベース (Billionチャット)

	21年2Q 実績	20年2Q 実績	増減	%	21年2Q 実績	20年2Q 実績	増減	%
売上収益	111	163	-52	-31.8%	152	212	-60	-28.3%
事業利益	47	71	-25	-34.6%	64	93	-29	-31.3%

円ベース (億円)

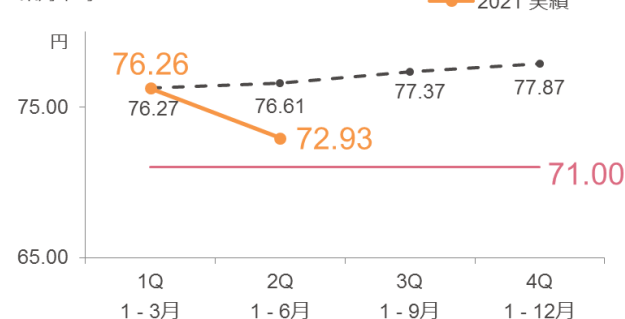
チャットベース (Billionチャット)

	2021年 修正 予想	2020年 実績	増 減	%	2021年 従来 予想	修正 額	2021年 修正 予想	2020年 実績	増 減	%	2021年 従来 予想	修正 額
売上収益	206	318	-112	-35.2%	386	-180	290	409	-118	-29.0%	489	-199
事業利益	62	138	-76	-55.3%	160	-98	87	177	-90	-51.0%	202	-115

通期予想レート：71.00円 (1,000 MMK)

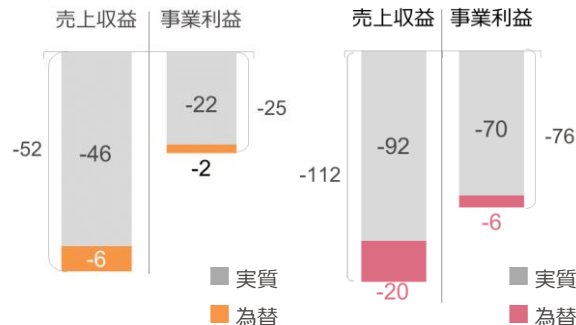
1,000 MMK (ミャンマー・チャット)

*累月平均



対前年連結為替影響
2021年2Q実績 (億円)

対前年連結為替影響
2021年予想 (億円)



2021年2Q実績

- ビール市場は、新型コロナの感染拡大に加え、ミャンマーにおける政情激変とサプライチェーンの混乱の影響もあり、販売数量は約2割減少した。
- ミャンマー・ブルフリーの販売数量も、前年を約3割下回った。
- 売上収益、事業利益ともに、販売数量の減少によって減収減益。

2021年業績予想修正

- 新型コロナ感染再拡大の影響がしばらく継続するとみており、販売数量は上期と同等の3割減を見込む。
- 販売数量減に加え、為替影響等により原材料コストが上昇していることから、事業利益は悪化。

JV解消

- MEHPCL社とのJV解消に向けて協議を継続中。
- ミャンマー・ブルフリー社からの配当は停止を継続。

2021年度 2Q実績 / 2021年度 業績予想修正：コーク・ノースイースト

円ベース (億円)

	21年2Q 実績	20年2Q 実績	増減	%
売上収益	717	639	78	12.2%
事業利益	70	35	35	99.7%

USドルベース (million \$)

	21年2Q 実績	20年2Q 実績	増減	%
売上収益	661	590	71	12.0%
事業利益	64	32	32	99.4%

円ベース (億円)

	2021年 修正 予想	2020年 実績	増 減	%	2021年 従来 予想	修 正 額
売上収益	1,425	1,294	131	10.1%	1,300	124
事業利益	127	93	34	36.6%	91	36

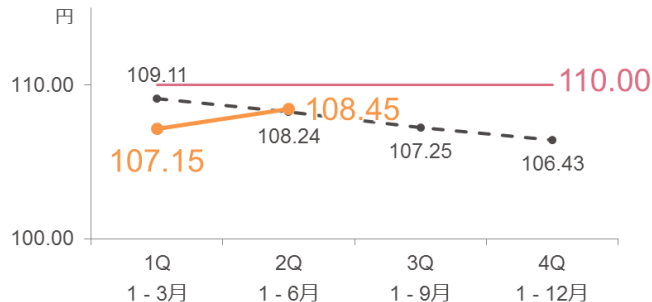
USドルベース (million \$)

	2021年 修正 予想	2020年 実績	増 減	%	2021年 従来 予想	修 正 額
売上収益	1,295	1,216	79	6.5%	1,238	57
事業利益	115	87	28	32.2%	87	28

通期予想レート：110.00円 (米ドル)

USD (米ドル)

*累月平均

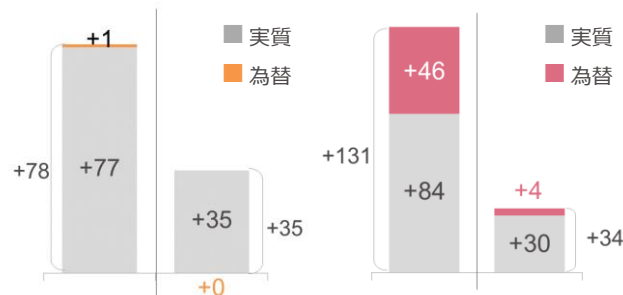


対前年連結為替影響
2021年2Q実績 (億円)

売上収益 事業利益

対前年連結為替影響
2021年予想 (億円)

売上収益 事業利益



補足

2021年2Q実績

- 販売数量、売上収益ともに伸長。
北米での経済・消費需要の急速な回復の機会を逃さず、価格改定とチャネルミックスの改善により1Qに続き増収。
- 事業利益も1Qに続き大幅増。
売上収益の増加に加え、販管費削減の継続的な取り組みを始め、着実なコストコントロールを実施。
事業利益率は前年同期約5%から約10%に上昇。

2021年業績予想修正

- 販売計画の見直しにより売上収益を上方修正。
競争の厳しい市場環境だが、適切な価格政策とチャネルミックス改善の継続により、増収を見込む。
- 事業利益も年初計画を上方修正。労務費や一部原材料費の増加を見込むが、それらを上回る売上収益の拡大とコスト削減により、増益をめざす。

▶ コロナ禍により減収も増益を確保。配当も維持。

(百万ペソ)	2020年1-3月		2020年4-6月		2020年7-9月		2020年10-12月		2020年累計		2021年1-3月	
	実績	増減 %	実績	増減 %	実績	増減 %	実績	増減 %	実績	累計 %	実績	増減 %
売上高	28,404	-18%	14,389	-59%	29,689	-12%	35,446	-8%	107,928	-24%	28,846	2%
営業利益	5,383	-44%	1,976	-79%	7,450	-20%	9,658	-8%	24,467	-37%	6,751	25%
営業利益率	19.0%	-	13.7%	-	25.1%	-	27.2%	-	22.7%	-	23.4%	-

*現地開示ベース（キリンホールディングス 2021年度2Q決算への取込み期間：2020年10月～2021年3月） 出所：San Miguel Brewery Inc. Financial Highlights, Quarterly Reports

持分法による連結取込み

(億円)	21年2Q	20年2Q	増減 %
当期利益 (SMB)	258	237	9.0%
連結取込	125	115	8.7%

為替レート：1ペソ=2.21円（前年同期：2.17円）
（キリンホールディングス 2021年度2Q決算への取込み期間：2020年10月～2021年3月）

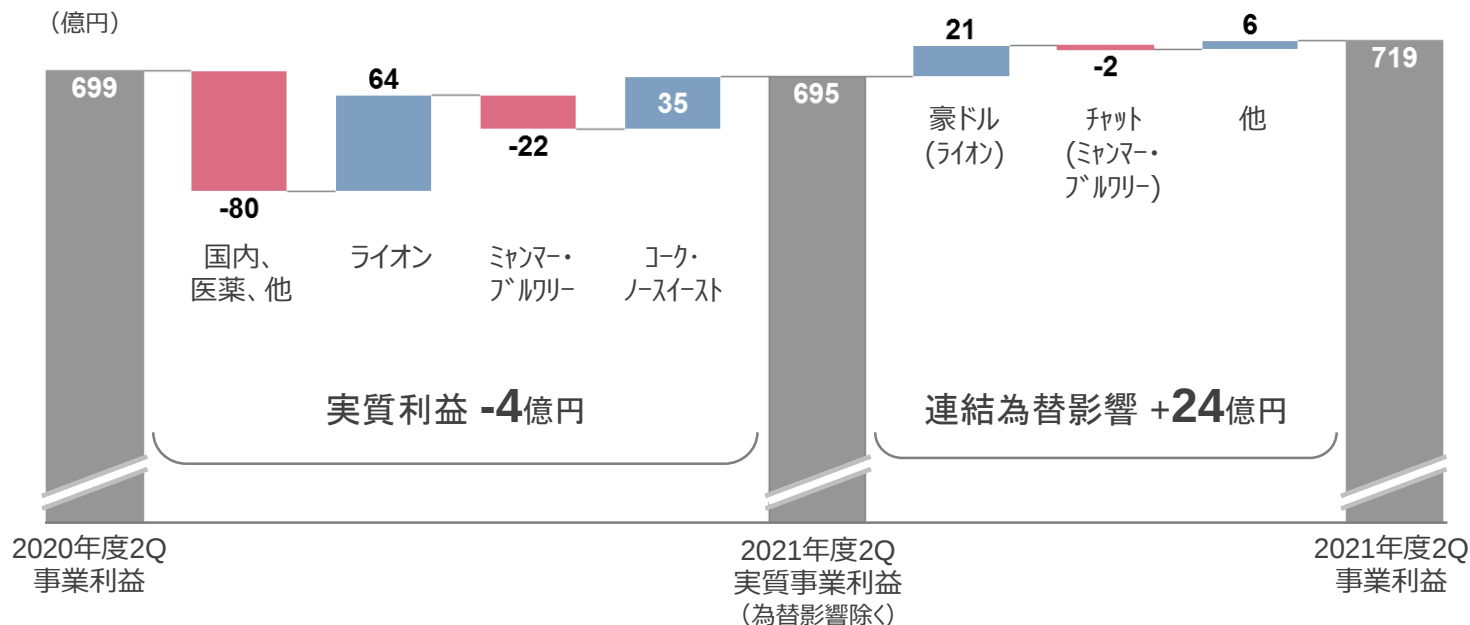
キリンホールディングス受取配当金

	21年2Q	20年2Q	増減 %
配当金（億円）	84	79	6.3%
1株当たり配当金（ペソ）	0.50	0.50	-

配当金についてはキャッシュインベースで計上

2021年度 2Q実績：連結為替影響

➤ 円安・豪ドル高などを受け、連結為替影響は+24億円。



この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together